

じり施設を整備し、高齢者の受け入れ体制を整える。一人暮らしの高齢者には、定期的な訪問で地域全体の見守りを実施。問題点が出た場合は地域情報をまとめ、行政と一体となり共有することが大事である。

【Dグループ】

若い世代と高齢者のコミュニケーションセッションの機会が少ない。次世代と高齢者とのネットワークづくりを構築するにはどうしたら良いか。現状はこども会、老人会などに分かれて会合を実施し、行事や参集の対象が分かれている。

【提言】

高齢者の意見も必要であるが、若い世代の意見も尊重できるような体制をとるための環境づくりが大事。例えば学習発表会や文化祭などに高齢者を招待し、地域のコミュニケーションを図るべき。例として伊唐小学校では、夏休みの出校日にあわせ老人クラブによる「そうめん流し」を開催している。子どもたちや保護者との交流会は有意義なものになっている。

【Eグループ】

獅子島の片側地区では、集落に引越してくる若者が多い中、危険な場所が多く子どもを遊ばせる安全な場所が少ない。

【提言】

獅子島の片側集落では、Iターン、Uターンにより子どもが増える傾向にある。幣串集落、御所ノ浦集落、湯ノ口集落は学校や学校跡地がある場所がない。地区の子育て世代の保護者たちと話し合いの場を設け、協議が必要。行政担当者も獅子島地区を巡回し、遊具などの必要性を確認するべき。

【Fグループ】

ごみ出しのルールでごみを出す時間帯が大変であり、野焼きをする住民が見受けられる。ごみ出しのルールをみんなが守れるようにするためにはどうしたらよいのか。

【提言】

高齢者が分別を間違っている場合はその場で分別を手伝う。蔵之元地区では、隣保班

長が当番で資源ごみの分別に立会っている。高齢者宅の資源ごみも小組合で話し合い、近所の人がごみ出しの手伝いをしている。

【講評 たもつゆかり氏】

今回の会議は参加することに意義があります。これから長島町は、住民一人一人が行政に頼らずに自分たちで考え実践していくことが大事です。

前回までの会議は、「女性の声を聴く101人の会」として町に対しての要望でしたが、今回は「ながしまを考える会」ということで、皆さんが考えたことを今後の行政の施策に役立てられるようにすることが目的です。子育て世代、高齢者の問題が多く議題としてあげられましたが行政とは縦割り社会です。行政とみなさんとが共生して地域づくりを実践していくことが大事です。

【講評 川添健町長】

大変貴重なご意見をありがとうございました。今までの「女性の声を聴く101人の

会」では、できるものとできないものとに仕分けができました。しかし、今回の会議では非常に難しい問題があげられ、子育てや高齢者問題も含めて、福祉の重要性が痛感させられた提言であったように思います。本町では、福祉事務所を開設し、福祉が充実した町づくりとしてきめ細かな福祉業務をしています。さらに充実を図りたいと思います。私自身、語り、動きたいと思えますので、皆さんがたの地域での会議やいろいろな問題で困ったことがあります。各担当課との協議も含めて行政の問題を持ち寄り、今後の行政へ反映できるように担当課長と一緒に頑張りたいと思います。今後も女性の多様な意見をいただきますようお願いいたします。

【講評 中橋藤七教育長】

子育てについて、いろいろな制度がありますが、町民の皆さんに周知が行き届いていないことは、非常に残念なことでした。今後は活用できる

制度もたくさんありますので、周知徹底されるように努力していきたいと思っています。子育てにしても教育問題にしても、まだまだ行政が皆さんがたと一緒に解決していかなければならない問題がたくさんあります。今後この会議を通じて^{くつ}託のない提言をお願いしたいと思います。



→講師のたもつゆかり氏からアドバイスを受ける参加者ら